

第1回 下野市地域福祉計画推進委員会 議事録（要旨）

■ 開催日時

平成 29 年 11 月 20 日（月） 午後 2 時～4 時 30 分

■ 開催場所

下野市役所 303 会議室

■ 出席者（委員 11 名）

林委員長、川俣副委員長、津野田委員、伊澤委員、山田委員、金島委員、鱈淵委員、海老原委員、石嶋委員、長谷川委員、鶴見委員

■ 事務局及び関係職員

下野市：山中健康福祉部長、手塚社会福祉課長、小川高齢福祉課長、落合こども福祉課長、大島健康増進課長、金田総合政策課長補佐、川俣市民協働推進課主幹、近藤安全安心課長補佐、近藤生涯学習文化課長、佐藤スポーツ振興課主幹、伊澤社会福祉課主幹、厚木社会福祉課副主幹
下野市社協：小口事務局長、角田次長、小林課長、添野課長補佐

〔推進委員会〕

1. 開会
2. 委嘱状交付（代表で林委員が受理）
3. あいさつ（広瀬市長）
4. 下野市地域福祉計画推進委員会設置要綱について（事務局説明）
5. 委員自己紹介
6. 委員長及び副委員長選出（委員互選）
7. 議題

委員長 議題に入る前に、議事録署名の選出をしたいと思います。名簿の順で、津野田委員、伊澤委員をお願いします。

（1）地域福祉計画及び地域福祉活動計画の概要について

事務局 資料に基づき説明（特に発言はなし）。

（2）地域福祉計画（H24～H28 年度）及び下野市地域福祉活動計画（H26～H28 年度）の期末検証について

事務局 資料に基づき説明

委員長 それぞれの 1 期計画について期末検証をして、その進捗について主だったものについてご説明いただきましたが、この点について何かございますか。

長谷川委員 地域福祉計画について、計画書 37 ページの中間評価では A 評価がゼロだったものが、今回の資料では基本目標 2 の自己評価に A ランクが 5 件入っていますが、それ

でもほとんどBかCということで、中身を見るとほとんどが継続事業であるので、課題に対する方策について達成度をもう少しメリハリをもたせて、今回Aも入りましたが、BとかCとかだけでなく、もう少し分かりやすく表現したほうがいいのではと思いました。もう1点、評価については担当者の一方的な自己評価のみではなく、事業の参加者評価というか市民評価といった点も考慮したほうがいいと思います。

林委員長 計画を策定する段階での途中の評価と、期間終了後の期末評価が変わっているのは、目標に対する達成度ということから担当者がそのような評価をしたということによろしいでしょうか（担当者頷く）。それから自己評価ということで担当部署なりが評価をしていますが、今後の2期計画のモニタリングとして市民なり私たち委員なりが評価を加えていくということがあってもいいのでは、というご意見だったと思いますが、客観性を担保するという上でも、そのような方法についても検討していただければと思います。それから、社協の計画の方は、中間と同様に自分に厳しい自己評価になっていますが、目標が達成できてもCということによろしいですか。

事務局 社協の評価につきましては、ほぼ計画通りに達成できたものをCとしまして、目標を十分に超えていけばB、やや努力が足りなかったものについてはD、Aについてはその事業が目的を達成して役割を終えるようなものであり、なかなか出せないだろうということで、評価をさせていただいています。今後2期計画の評価については、両計画とも同じ物差しで、また、委員さんや外部の方の客観的な評価についても取り入れることも検討しながら取り組ませていただきます。

長谷川委員 市民評価というとなかなか難しいと思いますが、参加者評価はできると思います。もう一つ、新聞記事で紹介されたが、兵庫県明石市で他市との比較評価をしているようです。彼我の差を見るということで参考になると思います。

林委員長 県内に下野市との比較対象として適切な自治体はありますか。

手塚課長 近隣であれば小山市や壬生町、あるいは行政としての同規模類似団体との比較ということになると思いますが、そういった比較を行うことで、客観的な自分たちの位置が分かるということになると思います。

林委員長 項目が一緒でないと比較が難しいということになりますが、明石市の例も含めて、この計画期間中にそういったものも取り組んでいただければありがたいと思います。また、市民アンケートのようなものは、これからいろいろな企画をされる時に、外部の評価を取り入れるという提案として受け止めていただき、可能な時には事業ごとに取り組んでいただければと思います。

(3)「下野市みんなで築く 地域の絆プラン（第2期下野市地域福祉計画及び第2期下野市地域福祉活動計画）」の進捗状況の把握と今後の取り組みの検討について

事務局 資料に基づき説明

- 委員長 2期計画について、主だったものについてご説明いただきましたが、何かご質問等ございますか。
- 鶴見委員 社協のミニサロン事業の推進ですが、このあと市内で何か所増えていく見込でしょうか。
- 事務局 社協のミニサロン事業につきましては、介護予防事業の一環として取り組んでおりました、通常の地域ミニサロンとは別なものとなっております。
- 小川課長 地域ふれあいサロンにつきましては、現在市内22か所、地区別では石橋地区が7か所、国分寺地区が5か所、南河内地区が10か所であります。特に高齢福祉課として力を入れております「元気はつらつ体操」が介護予防に大変有効でございますので、地域ふれあいサロンで継続して取り入れて実施しております。
- 長谷川委員 出会いふれあいサービス事業の廃止に伴いサロン事業に移行とありますが、1期計画の報告書の中で各年約1,000名の数字が入っていますが、この人数が新規のサロン事業にシフトできるのでしょうか。
- 事務局 これまでの出会いふれあい事業につきましては、比較的元気な方も利用できましたが、新しいミニサロン事業は、介護認定の審査を受けていただいた方の介護予防としての取組ということでして、事業の性質が変わっているという点があります。ですので、出会いふれあい事業を利用していた方の中には、他の地域ミニサロンに移っていただいている方も多くあります。
- 長谷川委員 この人数は現在22か所の地域サロンで吸収できませんよね。
- 事務局 約1,000名という数字は年間の延べ人数でして、各地区とも登録されていた方は30名程度でございました。
- 林委員長 地域のふれあいサロンについても、今後、箇所数を増やす予定だと思います。私の手元の資料でも来年が28か所、その次が34か所、平成32年には40か所といった計画の策定となっております。
- 鶴見委員 市民活動の拠点づくりについて、空き施設の状況調査ということですが、市として何か今後の具体的な方向性というものはありますか。
- 事務局 全体の調査としましては、総合政策課で現在検討を進めている状況でして、まだ結果としてまとまっておられません。
- 鶴見委員 市の施設以外でも、空き店舗や空き家など、拠点づくりとして活用できるのかどうかについても検討されるのでしょうか。
- 山中部長 空き家対策につきましては、実際に拠点づくりとして活用できるかどうかは分かりませんが、安全安心課で協議はしております。
- 長谷川委員 地域包括ケアシステムの構築に関連しまして、下野市内の認知症の実態や予測についてお分かりでしたら教えていただきたいのですが。
- 小口局長 私の手元の資料ですが、下野市では2025年に約3,000人程度の推計をしております。

- 津野田委員 自治会の加入についてお尋ねしますが、市民課の窓口で転入者に自治会加入の案内を配布しているということですが、転入者が自宅に戻ってから自治会長を訪問して自治会加入の手続きをするというより、もう一步丁寧な窓口での手続き対応をしていただいた方がいいように思います。
- 林委員長 やはり市としては、こういった自治会組織がありますので、といった案内になるのだと思いますが、その後の追跡などはしているのでしょうか。
- 川俣主幹 これは最近からですが、市民課の窓口でパンフレットをお配りする際に、自治会加入について詳しく説明をするというようにいたしました。追跡ということにつきましては、転入者の方が新たに自治会に加入されると、広報等の配布部数が増えますので、いついつから何世帯増えましたという報告が自治会長さんから上がってきますので、自治会加入世帯の増減についての把握はしておりますが、単純にその自治会内に何世帯の転入があり、その内何世帯が自治会に入ったかについては把握できません。
- 林委員長 どの自治体においても自治会加入率が低下しているという状況ですので、新たな自治会加入の仕方や加入のメリット等についても、自治会内で検討されていることだと思います。
- 長谷川委員 地域支援事業への取組の中で、市民が主体となり地域福祉活動が展開できるよう組織づくりを推進するということですが、ここで提案ですが、いわゆる高齢者と言っても現役組と変わらない方もいるわけですし、そうした方たちに社会福祉活動へ参加していただく方策として、各人がどういった専門分野をもっているか、専門知識を活かすことができないかを考えると、誰がどういった知識をもっているかをアンケート等により把握して、そういったスキルをもった方の活用を企画していったらどうかと思います。
- 林委員長 ユニークなご意見だと思います。65歳以上は高齢者だと一言でまとめてしまっても、最近の地域活動を見ていると、現役を退いたばかりの方たちがバリバリと活躍されている姿が見られます。そういった方たちを呼び込むにはどうしたらいいかということですが、私は地域でこんなことに貢献できます、というようなスキル登録のようなものはどうかという提案でしょうか。
- 長谷川委員 いろんな力量をもった方がいますので、そういった方を登録してもらって、市がそれを把握することで、この人にはこういった役割を担ってもらおう、といったこともできると思います。
- 林委員長 社協が福祉教育として各学校にあてたりしていますが、対象層としてリタイア直後組についても、住民としての貢献についてとしたターゲットとしていくのも一つかもしれません。
- 長谷川委員 災害ボランティアについてですが、いま災害が発生したらどれだけの人材が確保できるかということを考えてときに、ボランティアに対し目標設定をすべきと思います。

す。市内各地区に均一的にボランティアがいた方がいいと思いますので、各自治会にそういったボランティアがいないと困る、ということと呼び掛けていくべきだと思います。

林委員長 現在8つの自主防災組織が訓練等を活発に行っているということですが、安全安心課としてこの辺りで何かありますか。

近藤補佐 この8組織以外にも、各自治会で組織を立ち上げていただくようなお願いをしています。いくつかそれに向けた動きのある自治会もありますので、これから順次整備されていければと考えております。

長谷川委員 ボランティア個人としても、やはり各地区に散らばっていたほうがいいと思いますので、そういった目標があってもいいと思います。

林委員長 社協にも災害ボランティア講座がありますので、5年間の中でそういった目標についても検討いただけるといいかと思えます。

津野田委員 きらら館の健康づくり事業ですが、利用者がとても増えていて、私も含めて運動ばかりでなくコミュニケーションを図れるところが楽しみで通っている方も多いのですが、足が無くてそこに行けないという方の話も耳にします。デマンドバスを利用すればいいのですが、お金もかかりますし待ち時間もあるので、運動には行きたいがなかなか行けないという声もあるので、その点で何かいい方法がないのかな、と思います。

林委員長 きらら館の関連事業で指定管理者による運営ということですが、送迎や移送については全地区的な問題だと思えますが、いかがでしょうか。

手塚課長 今のところ具体的な案としては申し上げられませんが、きらら館・ふれあい館に続いて来年からゆうゆう館も指定管理として計画しておりますが、そういった中で、指定管理者とタイアップしながら、利用者の声をお聞きして、サービスの充実につなげていきたいと考えております。

長谷川委員 津野田委員の意見は、デマンドバスがもっと利用者の要求に応じた運行ができないか、ということだと思えますが、デマンドバスについては利用者増に向けた現状分析が足りないような気がします。利用者の動線や密度のデータをあまりとられていないのではないのでしょうか。

近藤補佐 デマンドバスにつきましては、利用者の方がどちらで乗られているといった地区的なデータについては集めています。タクシーに近い使い方ができる乗合バスということでご利用いただいておりますが、その日の予約の状況や移動の距離などにより、お待ちいただく時間が変わってきますので、お時間がかかるという声はお聞きしていますが、その点はご了承いただいて、1時間以内にお迎えに行きお送りするという運行をさせていただいております。

長谷川委員 利用者はお金を払っているのですから、お客様目線が欲しいのかもしれませんが、そういう意味での検討が必要かと思えます。

- 伊澤委員 私も病院でデマンドバスを頼んでいるご夫婦が、事務員さんから1時間待ちを告げられて、ご主人がそんなに待つならタクシーで帰るとおっしゃっているのを見たことがあります。その時、例えば地区ごとに、通院の方用、買い物の方用といった目的ごとの運行をしてはどうかと思いました。
- 林委員長 安全安心課としても、デマンドバスについて検討している委員会などはあるのでしょうか。
- 近藤補佐 地域公共交通会議がございますので、そちらで検討はさせていただいております。
- 林委員長 ただいまだいたご意見についても、そちらの会議の場で議論いただけるとありがたいと思います。
- 津野田委員 人権擁護委員としての立場からですが、これは下野市に限ったことではありませんが、心配ごと相談の利用が年々減っている気がします。相談が少ないのは平和だということかとも思いますが、無料法律相談事業についてはどうなのでしょう。
- 事務局 無料法律相談につきましては、1回10名という枠がございまして、ほぼ毎月定員いっぱいの利用状況です。
- 津野田委員 心配ごと相談は開設日に一人も来ないという日もありますが、もっとも下野市は行政カレンダーでも開設日をお知らせして、週3回各地区での開催をしています。これは県内でも珍しいことですので私もアピールをしていきたい。相談日が多く設定されるから相談者も分散するのだろうと思っています。ただ、事業のPRについてはまだまだ必要かと思っています。
- 林委員長 以前と比べ全国的にも心配ごと相談所の相談件数が減ってきているのは、ほかに専門的な相談機関が増えてきたということも理由の一つとしてあると思います。
- 伊澤委員 広報啓発活動という点ですが、下野市はマスメディアを有効に活用して事業のPRをしているなど、その点は評価できると思います。
- 金田補佐 様々な媒体で的確な情報提供を心がけておりますので、そのような評価を頂けるとありがたいと思います。今後もタイムリーな情報発信に努めてまいります。
- 長谷川委員 広報しもつけは月19,500部発行とありますが、市内の世帯数は23,000ですが、残りの3,500世帯はどうなっているのでしょうか。
- 金田補佐 自治会加入世帯ということが前提にありますので、そのあたりからの減ということがあります。また、例えば自治医大の学生寮のように何百という世帯数に対して何十部の配布といったこともございまして、実際の登録世帯数よりは少ない数字となっております。
- 長谷川委員 自治会加入者のみに配っているということですか。
- 金田補佐 基本は自治会加入者ということですが、未加入の方でも希望に応じてお配りしていますし、公共施設のほか金融機関、駅やコンビニにも設置しておりますので、そこで入手していただく方法もございます。
- 長谷川委員 下野市に暮らす人3,500世帯の方に、行政情報が届かないというのはどうかなと思

います。

石嶋委員 ただ、班長さんに、自治会に入っていない方にも届けてほしいと頼むのは難しいと思います。ホームページもありますし、そういったところから自分で情報を入手することができることを考えれば、未加入者にわざわざ届けなくてもと思います。

長谷川委員 そのような捉え方も理解しますが、やはり情報として3,500世帯の方にも伝えることが重要だと私は思います。誰がどのように届けるかということはありませんが。

林委員長 郵送も行っていきますか。

金田補佐 希望者には郵送も実施しています。それから今後、全戸にタブロイド判を郵送してアンケートを実施する予定もございます。広報紙を自宅まで届けるのがいいのか、あるいは施設等で入手してもらった方がいいのか、また、ホームページ等の他の媒体で入手される方もいると思いますので、そのあたりをアンケート調査によって分析を試みようと考えております。

長谷川委員 広報紙も表紙にアイテムやコンテンツを分かるように入れると見やすいと思います。これは提案です。

石嶋委員 今回いただいた資料にもいくつかありますが、数値で今年上半期はこうでした、昨年度はこうでした、となっていると比較がしやすく分かりやすいと思います。背景を読み解くためにも、次回以降の資料にはそのあたりの数値も入れていただきたい。

林委員長 それでは事務局にはそのあたりのご検討もよろしくお願いします。本日は第1回の推進委員会として進めてまいりましたが、この計画の策定に関わった者として私たちは推進委員会に入ったわけですので、各委員地域に戻りましても、この計画を推進する役割がございますので、このあたりも協力して進めてまいりたいと思います。また改めて、ところどころでこの計画の評価をしていきたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いします。また、本日議論いただいた様々な方向性についても、市並びに社協にご検討いただくところは検討いただきたいと思います。それでは事務局から今後の取り組みについて連絡をお願いします。

事務局 本日お配りした資料6をご覧ください。本日皆様から頂いたご意見をもとに計画を推進してまいりますが、計画期間は5か年ですので、計画全体につきましては計画3年目の平成31年に中間報告を、次に5年目の平成33年に全体的な進捗報告をさせていただきます。また、これに加え、実施計画になる活動計画につきましても、年度目標を掲げている事業もございますので、2年目の平成30年と4年目の平成32年にもそれぞれ1回ずつ、活動計画のみについての進捗報告の場を設けさせていただきますと考えております。いずれにしましても委員会の開催通知を早めにご通知支えあげますので、ご参加につきましてよろしくお願いいたします。

8. その他 (事務局説明)

9. 閉会

議事録署名人 津野田 久江 (印)

議事録署名人 峰澤 正以 (印)
